

〔續日本紀九〕神龜元年二月甲午、二品新田部親王授一品。

〔皇胤紹運錄〕賀陽親王桓武皇子二品刑部卿、兵部卿、治部卿、貞觀十三、

大野親王桓武皇子四品治部卿、延曆廿二、十、薨、六歲、母同。

坂本親王桓武皇子四品治部卿、母川上貞好。

有明親王醍醐皇子三品兵部卿、母女御和子、光孝女。

〔小右記〕寬弘八年九月十日庚辰、故院條一宮達叙四品之御慶事、送書狀於母氏許也、十八日戊子、

昨日戌刻、故院宮達參內於射場、令奏慶賀、訖其道經數政門、即被聽昇殿、依召參御前、候又願以菅圓

座爲座、暫可令退下、中納言隆家、行成、參議經房等相從親王云云、候御前之間、左大臣藤原道長候御帳

邊云云、資平所談、

○按ズルニ、故院宮達トハ、後朱雀天皇ナルベシ、皇胤紹運錄ヲ按ズルニ、後朱雀院諱致真、母寬

弘六、十一、廿五降誕、同七、正、十六爲親王、二トアリ、御母ハ上東門院ナリ、此天皇ヲ除クノ外ハ皇

子ナキナリ、

〔光臺一覽〕二扱親王御昇進の次第は、親王宣下は有て、いまだ位に叙し給はぬを無品親王と申、夫

より四品三品二品と上り給ひ、一品は至極の先途と心得べし、官は中務卿、式部卿、兵部卿、又は太

宰帥、彈正尹等也、

〔有栖川系圖〕詔仁親王

弘化二年二月廿七日一品宣下、非一世親王者、其例邂逅雖不容易被及、六旬有餘、且病氣危篤之

間、以格別之徽慮被宣下、不可爲後例、

〔令義解一〕親王

一品 太政大臣

任官